

IPSuS



®環境省

エコアクション21

認証・登録証

認証・登録番号 0009875

認証・登録事業者 永和工業株式会社

福岡県北九州市門司区松原二丁目3番5号

事業活動 管工事業、機械器具設置工事業、消防施設工事業

対象事業所 本社、小倉第一事業所、小倉第二事業所、黒崎事業所

認証・登録日 2014年2月3日

更新・登録日 2020年2月3日

有効期限 2022年2月2日

上記事業者は「エコアクション21ガイドライン2009年版」(環境省)の
要求事項に適合していることを証します。

一般財団法人 持続性推進機構

理事長

安井 至



エコアクション 21

2018年度 環境活動レポート



[対象 期間]

自 2018年 4月 1日
至 2019年 3月 31日

永和工業 株式会社

作成日 2019年 7月 31日

— 目 次 —

1. 組織の概要

- (1) 事業所名 及び 代表者名
- (2) 所在地
- (3) 事業の概要
- (4) 事業の規模
- (5) 環境管理責任者 及び 担当者連絡先

2. 対象範囲

- (1) 認証・登録範囲 : 全事業所、全組織を 対象とする
- (2) 役割・責任・権限

3. 環境方針

4. 環境目標

5. 環境活動計画

6. 環境目標の実績

7. 環境活動計画の取組み結果とその評価 及び 今後の取組み計画

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認 及び 結果・評価

9. 代表者による全体評価 と 見直しの結果

1. 組織の概要

(1) 事業所名 及び 代表者名

事業所名 えいわ こうぎょう 永和工業株式会社
代表者名 はらだ もとこ 代表取締役 原田 素子

(2) 所在地

本社 きたきゅうしゅうし もじくまつばら 2-3-5 北九州市門司区松原 二丁目3番5号
小倉第一事業所 北九州市小倉北区中島 二丁目1番1号
小倉第二事業所 北九州市小倉南区朽網東 五丁目1番1号
黒崎事業所 北九州市八幡西区黒崎城石 1番1号

(3) 事業の概要

建設業 ① 管工事業
② 機械器具設置工事業
③ 消防施設工事業

営業品目 * 各種プラントの配管工事
* 機械器具設置・改造工事 及び メンテナンス
* 各種ライニング工事
* 金属 及び 樹脂製品の製作加工
* 上記に付帯関連する工事の 設計施工

(4) 事業の規模

	2016年度	2017年度	2018年度
売上高	625,587 千円	796,429 千円	669,064 千円
従業員数	30 人	30 人	30 人
本社事務所床面積	226 m ²	226 m ²	226 m ²
本社工場建築面積	625 m ²	625 m ²	625 m ²
本社敷地面積	3,014 m ²	3,014 m ²	3,014 m ²

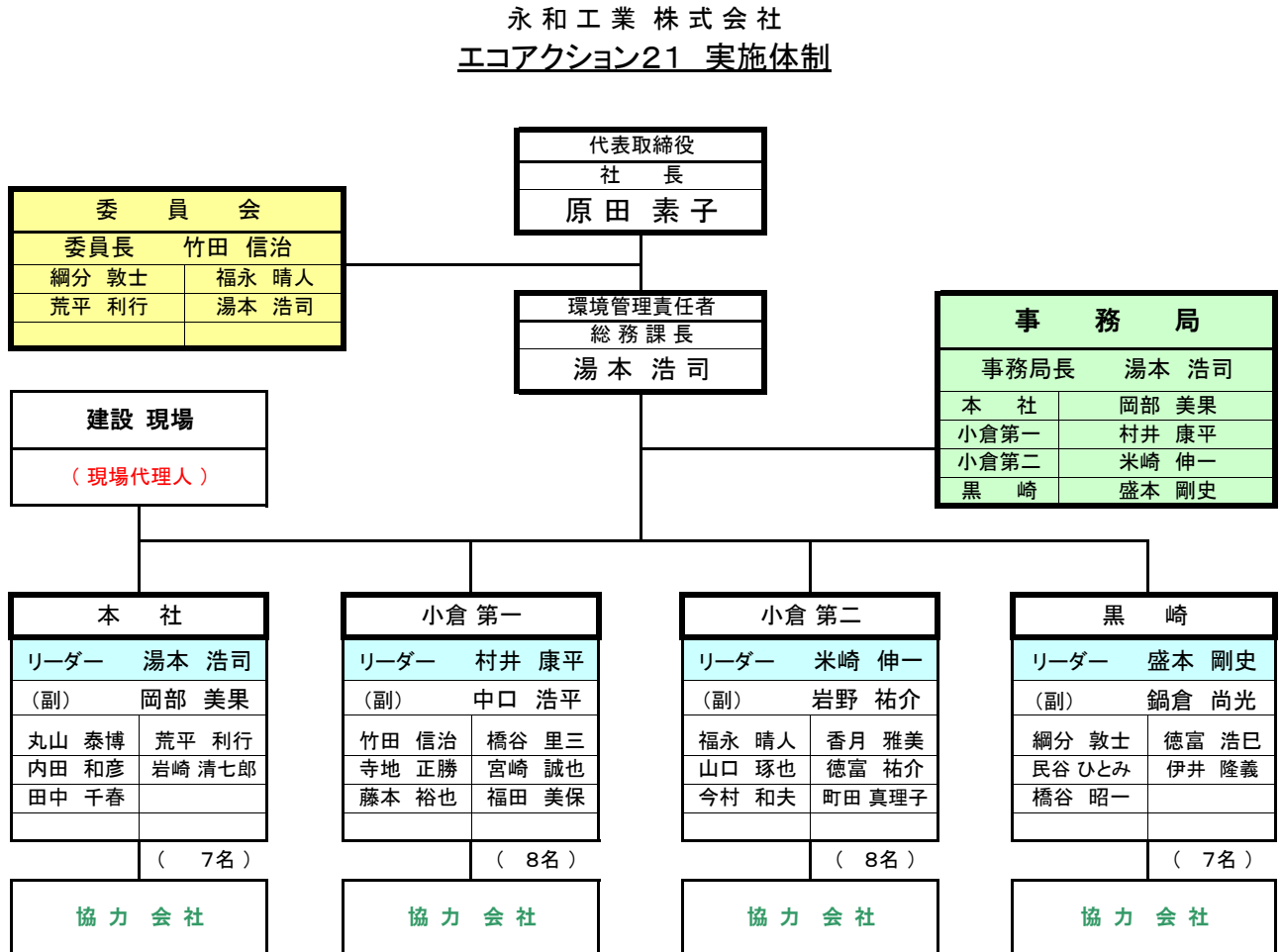
(5) 環境管理責任者 及び 担当者連絡先

環境管理責任者	総務 課長	湯本 浩司	[連絡先] 093-371-1221	[FAX] 093-381-5699
(担当 連絡先)	総務 課	湯本 浩司	093-371-1221	093-381-5699

2. 対象範囲（認証・登録範囲）

2018年 4月 1日

(1) 全事業所、組織の全事業活動を対象とする



(2) 役割・責任・権限

[役割分担表]

氏 名	役職 (所属)	役割・責任・権限・使命
原田 素子	代表取締役	全社活動の統括、環境方針の設定、環境への取組みを実施するためのあらゆる準備と活動全般の評価や見直しを行う。
湯本 浩司	総務 課長	活動全体の把握、環境経営システムを構築・運用し、その状況を社長に報告する。
(竹田 信治)	委 員 会	半年に1回開催し、環境目標の達成状況及び活動計画の実施状況を審議する。 必要によっては、随時開催する。
(湯本 浩司)	事 務 局	EA21文書及び記録類の作成・維持・管理 3ヶ月に1回事業所リーダー会を開催し、実施計画の対策や効果等の達成状況・目標に対する取組み実施状況などについて、審議する。
湯本 浩司	(本 社)	省資源活動 環境負荷の少ない物品を優先的に購入する。
村井 康平	(小倉 第一)	産廃物の削減 資源ゴミの分別を徹底し、廃棄物の減量に努める。
米崎 伸一	(小倉 第二)	省エネ活動 節水・節電に努めると共に設備・車両・機器等の環境商品化を推進して行く。
盛本 剛史	(黒 崎)	温暖化防止 人的・金銭的支援を含めた緑化活動推進により、地域貢献を行う。エコドライブの推進。
現場代理人	管轄 事業所	建設現場のエネルギー削減・リサイクル率管理・環境景観管理

3. 環境方針

環 境 方 針

I. 基本理念

環境保全を事業活動の中での重要課題に位置づけ、各利害関係者とコミュニケーションをとりながら、環境に資するあらゆる改善を継続的に図って行く。

II. 行動指針

1. 環境負荷の低減

(1) 省資源活動

- ① 環境負荷の少ない物品を優先的に購入する。
- ② 再生紙の利用や両面印刷等を推進し、用紙の削減や有効活用を行う。

(2) 省エネ活動

- ① 節水や節電に努める。
- ② 設備・車両・機器等についての環境商品化を推進して行く。

(3) 廃棄物の削減

- ① 無駄な消費を削減し、廃棄物の削減に努める。
- ② 資源ゴミの分別を徹底し、廃棄物の減量に努める。

(4) 温暖化の防止

- ① エコドライブを推進する。
- ② 原材料や副資材のグリーン化・グリーン購入に取り組む等、緑化活動を推進することによって、地域貢献を果たす。

2. 環境マネジメントシステムの構築と継続的改善

3. 環境教育の充実と環境の保護

4. 環境関連法規の遵守

5. 業務リスクを回避し、経営効率の向上を図る

(1) 不良品や手待ち・出戻りの撲滅

- ① 作業前の施工打合せをしっかりと行い、不良品の発生を防止する。
- ② 出発前には、材料や道工具などの積荷を確認し、手待ちや出戻りなど無くす。

(2) 無事故無災害の達成

- ① 始業前には、必ずKYを実施し、作業の安全を保持する。
- ② 現場・作業場の安全パトロールを実施し、不安全行動や不安全設備を改善する。

制定日 2011年 12月 28日
改定日 2018年 4月 1日

永和工業 株式会社
代表取締役
原田 素子

4. 環境目標

2018年 4月 1日

2018年度 及び 中長期環境目標

2016年度(基準年度)の実績を踏まえ、各年度の目標を設定しております。

環境目標		単位	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 目標	2019年度 目標	2020年度 目標	
			(基準年度)	(基準年度実績 対比率)	(基準年度実績 対比率)	(基準年度実績 対比率)	(基準年度実績 対比率)	
1	二酸化炭素 排出量	kg-CO2	39,025 kg-CO2 (100.0 %)	42,362 kg-CO2 (108.6 %)	36,694 kg-CO2 (94.0 %)	36,065 kg-CO2 (92.4 %)	35,250 kg-CO2 (90.3 %)	
1-1	電 気 使用量	KWh	26,355 kWh (100.0 %)	29,818 kWh (113.1 %)	24,000 kWh (91.1 %)	23,500 kWh (89.2 %)	23,000 kWh (87.3 %)	
1-2	ガソリン 使用量	ℓ	8,288 ℓ (100.0 %)	8,497 ℓ (102.5 %)	7,920 ℓ (95.6 %)	7,800 ℓ (94.1 %)	7,600 ℓ (91.7 %)	
1-3	軽 油 使用量	ℓ	1,614 ℓ (100.0 %)	1,975 ℓ (122.4 %)	1,580 ℓ (97.9 %)	1,560 ℓ (96.7 %)	1,540 ℓ (95.4 %)	
1-4	L P G 使用量	kg	52.00 kg (100.0 %)	12.80 kg (24.6 %)	48.00 kg (92.3 %)	46.00 kg (88.5 %)	44.00 kg (84.6 %)	
2-1	廃棄物 排出量	t	122.65 t (100.0 %)	88.64 t (72.3 %)	118.00 t (96.2 %)	115.00 t (93.8 %)	113.00 t (92.1 %)	
2-2	建設副資材の リサイクル率	リサイクル率 (循環資源 t)	41.60 % (51.02 t)	36.08 % (31.98 t)	42.4 % (50.00 t)	43.5 % (50.00 t)	44.2 % (50.00 t)	
3	総排水量(給水量)	m ³	82.0 m ³ (100.0 %)	80.0 m ³ (97.6 %)	78.0 m ³ (95.1 %)	76.0 m ³ (92.7 %)	74.0 m ³ (90.2 %)	
4	グリーン購入の推進	事務用品	再生用品の活用品目 達成率	0 件 (0.0 %)	0 件 (0.0 %)	1 件 (100.0 %)	1 件 (100.0 %)	1 件 (100.0 %)
		エコ車対応	省エネ車/車両総数(%) (全車両 16台) 普及率	7台 / 16台 (43.8 %)	11台 / 16台 (68.8 %)	12 台 / 16台 (75.0 %)	13 台 / 16台 (81.3 %)	14 台 / 16台 (87.5 %)
5	会社周辺の清掃 (※ 100%以上を達成目標とする)	実施回数 (達成率)	26回 / 年 (100.0 %)	28回 / 年 (107.7 %)	30回 / 年 (115.4 %)	32回 / 年 (123.1 %)	34回 / 年 (130.8 %)	
6	無事故 無災害 達成 (※ 各所 100%を達成目標とする)	事故災害 件数 (達成率)	—	—	0 件 / 年 (100.0 %)	0 件 / 年 (100.0 %)	0 件 / 年 (100.0 %)	

備 考 1 : 電気(1-1)・水(3)・周辺の清掃(5)は 本社のみ、LPG(1-4)は 本社と黒崎の合計で 集計する。又、購入電力の二酸化炭素排出係数は、2014年度 九州電力の 0.584 kg-CO₂/kWhを 使用している。

2 : 2016年度実績を 基準年度とする。

3 : 循環資源のリサイクル率は、年度毎の 循環資源/総排出量で 計算する。

4 : 化学物質の使用量は、極微量のため環境目標の策定は行っていない。

5. 環境活動計画

2018年 4月 1日

2018年度 環境活動計画

2018年度 環境活動計画の項目

(1) 二酸化炭素 総排出量削減

活動項目	本 社			小倉第一事業所			小倉第二事業所			黒 崎 事業所		
	実施活動	責任者	活動計画	実施活動	責任者	活動計画	実施活動	責任者	活動計画	実施活動	責任者	活動計画
1 電気 使用量の削減 (1) 事務所	① エアコンの室温調節（夏28度、冬22度）	岡部	通年	① エアコンの室温調節（夏28度、冬22度）	村井	通年	① エアコンの室温調節（夏28度、冬22度）	町田	通年	① エアコンの室温調節（夏28度、冬22度）	民谷	通年
	② 退社時には、エアコンを忘れずに切る。	田中	通年	② 退社時には、エアコンを忘れずに切る。	村井	通年	② 退社時には、エアコンを忘れずに切る。	福永	通年	② 退社時には、エアコンを忘れずに切る。	綱分	通年
	③ 昼休みの事務所は、原則 消灯とする。	田中	通年	③ 昼休みの事務所は、原則 消灯とする。	廻番	通年	③ 昼休みの事務所は、原則 消灯とする。	福永	通年	③ 昼休みの事務所は、原則 消灯とする。	綱分	通年
	④ 更衣室などの照明は、管理者が 再点検する。	湯本	通年									
	⑤ 効率的な業務に徹し、残業は 控える。	湯本	通年									
(2) 工場・加工場	① 未使用時の加工場・電動工具・休憩所等は、元電源を切る。	丸山	通年	① 未使用時の電動工具などは、元電源を切る。	廻番	通年	① 未使用時の電動工具などは、元電源を切る。	香月	通年	① 未使用時の電動工具などは、元電源を切る。	内田	通年
	② 昼休みの加工場は、原則 消灯とする。	湯本	通年	② 昼休みの加工場は、原則 消灯とする。	廻番	通年	② 昼休みの加工場は、原則 消灯とする。	香月	通年	② 昼休みの加工場は、原則 消灯とする。	内田	通年
	③ ピーク電力を考え、機器などを使用する。	丸山	通年									
2 ガソリン 使用量の削減	① 省エネ運転励行（急な発進・加速の禁止）	湯本	通年	① 出戻りの防止（積荷の確認）	村井	通年	① 出戻りの防止（積荷の確認）	福永	通年	① 出戻りの防止（積荷の確認）	伊井	通年
	② 規定の整備点検を 確実に行う。	岡部	通年	② EC車の導入を推進する。	竹田	通年	② EC車の導入を推進する。	福永	通年	② EC車の導入を推進する。	伊井	通年
				③ 規定の整備点検を 確実に行う。	竹田	通年	③ 規定の整備点検を 確実に行う。	福永	通年	③ 規定の整備点検を 確実に行う。	伊井	通年
3 軽油 使用量の削減				① 出戻りの防止（積荷の確認）	村井	通年	① 出戻りの防止（積荷の確認）	福永	通年	① 出戻りの防止（積荷の確認）	伊井	通年
				② 省エネ運転励行（急な発進・加速の禁止）	竹田	通年	② 省エネ運転励行（急な発進・加速の禁止）	福永	通年	② 省エネ運転励行（急な発進・加速の禁止）	伊井	通年
				③ 使用機器の整備点検を 確実に行う。	竹田	通年	③ 使用機器の整備点検を 確実に行う。	福永	通年	③ 使用機器の整備点検を 確実に行う。	伊井	通年
4 LPG 使用量の削減	① 給湯器を使用しない時は、種火を消す。	田中	通年							① 塩ビ等 加工作業の効率化を図る。	徳富	通年
	② 給湯器の使用回数を 最小限に留める。	田中	通年							② 給湯器の使用回数を 最小限に留める。	民谷	通年

(2) 廃棄物 排出量の削減と建設資材のリサイクル率の向上

	活動項目	本 社			小倉第一事業所			小倉第二事業所			黒 崎 事業所		
		実施活動	責任者	活動計画	実施活動	責任者	活動計画	実施活動	責任者	活動計画	実施活動	責任者	活動計画
1	廃棄物 排出量の削減	① 事前打合を充実させ、不良品を防止する。	丸山	通年	① 事前打合を充実させ、不良品を防止する。	村井	通年	① 事前打合を充実させ、不良品を防止する。	福永	通年	① 事前打合を充実させ、不良品を防止する。	綱分	通年
		② 資材の在庫購入は、最小限に留める。	丸山	通年	② 資材の在庫購入は、最小限に留める。	村井	通年	② 資材の在庫購入は、最小限に留める。	福永	通年	② 資材の在庫購入は、最小限に留める。	綱分	通年
		③ 端材・残材の活用に努める。	丸山	通年	③ 端材・残材の活用に努める。	村井	通年	③ 端材・残材の活用に努める。	福永	通年	③ 端材・残材の活用に努める。	綱分	通年
2	建設資材リサイクル 率の向上	① 廃材の分別を 厳格に行う。	丸山	通年	① 廃材の分別を 厳格に行う。	竹田	通年	① 廃材の分別を 厳格に行う。	米崎	通年	① 廃材の分別を 厳格に行う。	綱分	通年
		② 廃材のリサイクル処理を強化する。	丸山	通年	② 廃材のリサイクル処理を強化する。	竹田	通年	② 廃材のリサイクル処理を強化する。	米崎	通年	② 廃材のリサイクル処理を強化する。	綱分	通年

(3) 総排水量の削減

	活動項目	本 社			小倉第一事業所			小倉第二事業所			黒 崎 事業所		
		実施活動	責任者	活動計画	実施活動	責任者	活動計画	実施活動	責任者	活動計画	実施活動	責任者	活動計画
1	水 使用量の削減	① 台所・洗面所の節水活動の推進	田中	通年	① 台所・洗面所の節水活動の推進	福田	通年	① 台所・洗面所の節水活動の推進	町田	通年	① 台所・洗面所の節水活動の推進	民谷	通年
		② 夏季の散水や洗車水の節減	湯本	通年					通年		② 夏季の散水や洗車水の節減	綱分	通年

(4) グリーン購入の推進

	活動項目	本 社			小倉第一事業所			小倉第二事業所			黒 崎 事業所		
		実施活動	責任者	活動計画	実施活動	責任者	活動計画	実施活動	責任者	活動計画	実施活動	責任者	活動計画
1	エコ用品の活用	① 適正な再生品の選定していく。	岡部	通年	① 適正な再生品の選定していく。	竹田	通年	① 適正な再生品の選定していく。	町田	通年	① 適正な再生品の選定していく。	民谷	通年
2	省エネ車輛の導入	② 代替車は、EC車にする。	湯本	通年	② 代替車は、EC車にする。	竹田	通年	② 代替車は、EC車にする。	福永	通年	② 代替車は、EC車にする。	綱分	通年

(5) 会社周辺の清掃等

活動項目	本 社			小倉第一事業所			小倉第二事業所			黒 崎 事業所		
	実施活動	責任者	活動計画	実施活動	責任者	活動計画	実施活動	責任者	活動計画	実施活動	責任者	活動計画
1 会社周辺並びに 事務所・工場・加工場 などの5S活動推進	① 会社周辺の清掃	湯本	通年	① 日々の10分間清掃を継続する。	全員	通年	① 事務所内を定期的に清掃する。	町田	通年	① 資機材・備品等の整理整頓	伊井	通年
	② 会社周辺の飛散ゴミや空き缶の回収	湯本	通年	② 加工場・資材置場の整理整頓	全員	通年	② 加工場・資材置場の整理整頓	米崎	通年	② 加工場・資材置場の整理整頓	伊井	通年
	③ 会社周辺の除草	丸山	通年	③ 器具工具の定置管理の推進	全員	通年	③ 器具工具の定置管理の推進	米崎	通年	③ 不良品の廃棄及び不足品の調達	網分	通年

(6) 無事故無災害の達成

活動項目	本 社			小倉第一事業所			小倉第二事業所			黒 崎 事業所		
	実施活動	責任者	活動計画	実施活動	責任者	活動計画	実施活動	責任者	活動計画	実施活動	責任者	活動計画
1 安全パトロールの実施	① 2回/日の工場内の所長安全巡視	荒平	通年	① 2回/日の工場内の所長安全巡視		通年	① 2回/日の工場内の所長安全巡視		通年	① 2回/日の工場内の所長安全巡視		通年
	② 2回/月の工場内の課長安全巡視	荒平	毎月	② 2回/月の工場内の課長安全巡視		毎月	② 2回/月の工場内の課長安全巡視		毎月	② 2回/月の工場内の課長安全巡視		毎月
	③ 1回/月の工場内の社長安全巡視	荒平	毎月	③ 1回/月の工場内の社長安全巡視		毎月	③ 1回/月の工場内の社長安全巡視		毎月	③ 1回/月の工場内の社長安全巡視		毎月
	④ 2回/年 統括安全パトロールの実施	荒平	7・10月	④ 2回/年 統括安全パトロールの実施		7・10月	④ 2回/年 統括安全パトロールの実施		7・10月	④ 2回/年 統括安全パトロールの実施		7・10月
2 始業前のKY実施	① 朝礼時に安全面での注意事項を周知	荒平	通年	① 朝礼時に安全面での注意事項を周知		通年	① 朝礼時に安全面での注意事項を周知		通年	① 朝礼時に安全面での注意事項を周知		通年
	② 作業前にKYシートの記入を 実践する	荒平	通年	② 作業前にKYシートの記入を 実践する		通年	② 作業前にKYシートの記入を 実践する		通年	② 作業前にKYシートの記入を 実践する		通年
	③ 協力会社の教育と指導	荒平	通年	③ 協力会社の教育と指導		通年	③ 協力会社の教育と指導		通年	③ 協力会社の教育と指導		通年
3 安全衛生活動の 周知と推進	① 1回/月 中央安全衛生委員会を 開催	湯本	毎月	① 1回/月 中央安全衛生委員会を 開催		毎月	① 1回/月 中央安全衛生委員会を 開催		毎月	① 1回/月 中央安全衛生委員会を 開催		毎月
	② 1回/月 事業所毎に 安衛協議会を 開催	湯本	毎月	② 1回/月 事業所毎に 安衛協議会を 開催		毎月	② 1回/月 事業所毎に 安衛協議会を 開催		毎月	② 1回/月 事業所毎に 安衛協議会を 開催		毎月
	③ 全社合同 安全大会の開催	湯本	7月	③ 全社合同 安全大会の開催		7月	③ 全社合同 安全大会の開催		7月	③ 全社合同 安全大会の開催		7月
	④ 全社合同 労働衛生大会の開催	湯本	10月	④ 全社合同 労働衛生大会の開催		10月	④ 全社合同 労働衛生大会の開催		10月	④ 全社合同 労働衛生大会の開催		10月
	⑤ インフルエンザ予防接種の推進	湯本	11月	⑤ インフルエンザ予防接種の推進		11月	⑤ インフルエンザ予防接種の推進		11月	⑤ インフルエンザ予防接種の推進		11月

6. 環境実績

2019年 7月22日

2018年度 環境目標の実績 (12/12)

2016年度(基準年度)実績を踏まえ、2018年度の目標を設定しております。

環 境 目 標	単 位	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 目標	2018年度 実績	目標達成率	評 価	コ メ ン ト		
		(基準年度)	(基準年度実績 対比率)	(基準年度実績 対比率)	(基準年度実績 対比率)					
1	二酸化炭素 排出量	kg-CO2	39,025 kg-CO2 (100.0 %)	42,362 kg-CO2 (108.6 %)	36,694 kg-CO2 (94.0 %)	36,584 kg-CO2 (93.7 %)	100.3%	○	売上高の低下に伴い、CO2の排出量も低下した。	
1-1	電 気 使用量	KWh	26,355 kWh (100.0 %)	29,818 kWh (113.1 %)	24,000 kWh (91.1 %)	23,951 kWh (90.9 %)	100.2%	○	工場加工が減少し、工場電力の使用量が減少した。	
1-2	ガソリン 使用量	ℓ	8,288 ℓ (100.0 %)	8,497 ℓ (102.5 %)	7,920 ℓ (95.6 %)	7,982 ℓ (96.3 %)	99.2%	×	前年比の使用量は減少したが、出張工事で使用量が増加した。	
1-3	軽 油 使用量	ℓ	1,614 ℓ (100.0 %)	1,975 ℓ (122.4 %)	1,580 ℓ (97.9 %)	1,496 ℓ (92.7 %)	105.6%	○	極力、電力は支給の依頼をし、発電機燃料の軽減を図った。	
1-4	L P G 使用量	kg	52.00 kg (100.0 %)	12.80 kg (24.6 %)	48.00 kg (92.3 %)	46.00 kg (88.5 %)	104.3%	○	LPGを使用する加工や内作は増加したが、目標達成した。	
2-1	廃 棄 物 排出量	t	122.65 t (100.0 %)	88.64 t (72.3 %)	118.00 t (96.2 %)	116.59 t (95.1 %)	101.2%	○	排出量は昨年に比し増加したが、年度目標は達成している。	
2-2	建設副資材の リサイクル率	リサイクル率 (循環資源 t)	41.60 % (51.02 t)	36.08 % (31.98 t)	42.4 % (50.00 t)	43.5 % (50.70 t)	102.6%	○	分別廃棄の徹底で、リサイクル率が向上した。	
3	総排水量(給水量)	m ³	82.0 m ³ (100.0 %)	80.0 m ³ (97.6 %)	78.0 m ³ (95.1 %)	78.0 m ³ (95.1 %)	100.0%	○	節減活動が、こまめに実施されている。	
4	グリーン購入の推進	事務用品	再生用品の活用品目 達成率	0 件 (0.0 %)	0 件 (0.0 %)	1 件 (100.0 %)	0 件 (0.0 %)	0.0%	×	適正な再生品が、なかった。
		エコ車対応	省エネ車/車両総数(%) (全車両 16台) 普及率	7台 / 16台 (43.8 %)	11台 / 16台 (68.8 %)	12台 / 16台 (75.0 %)	13台 / 16台 (81.3 %)	108.4%	○	EC車への代替えが促進した。
5	会社周辺の清掃 (※100%以上を達成目標とする)	実施回数 (達成率)	26回 / 年 (100.0 %)	28回 / 年 (107.7 %)	30回 / 年 (115.4 %)	32回 / 年 (123.1 %)	106.7%	○	定期的な清掃で会社周辺は、綺麗になっている。	
6	無事故無災害達成 (※各所100%を達成目標とする)	事故災害件数 (達成率)	—	—	0件 / 年 (100.0 %)	0件 / 年 (100.0 %)	100.0%	○	活動が、水平展開され無事故無災害を達成した。	

- 備 考
- 1 : 電気(1-1)・水(3)・周辺の清掃(5)は本社のみ、LPG(1-4)は本社と黒崎の合計で集計する。又、購入電力の二酸化炭素排出係数は、2014年度九州電力の0.584 kg-CO2/kWhを使用している。
 - 2 : 2016年度実績を基準年度とする。
 - 3 : 循環資源のリサイクル率は、年度毎の循環資源/総排出量で計算する。
 - 4 : 化学物質の使用量は、極微量のため環境目標の策定は行っていない。

(2) 廃棄物 排出量の削減 と 建設資材のリサイクル率の向上

	活動 項目	本 社		小倉第一事業所		小倉第二事業所		黒 崎 事業所	
		評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み
1	廃棄物 排出量の削減	作業前の打合を 充分に行っている。	不良品や誤作を 出さないように	作業前の打合を 充分に行っている。	不良品や誤作を 出さないように	作業前の打合を 充分に行っている。	不良品や誤作を 出さないように	作業前の打合を 充分に行っている。	不良品や誤作を 出さないように
		不良品などの発生は ない。	事前の打合せを シッカリと行う。	不良品などの発生は ない。	事前の打合せを シッカリと行う。	不良品などの発生は ない。	事前の打合せを シッカリと行う。	不良品などの発生は ない。	事前の打合せを シッカリと行う。
		在庫は、適正である。		在庫は、適正である。		在庫は、適正である。		在庫は、適正である。	
		残材・端材の活用 に努めている。		残材・端材の活用 に努めている。		残材・端材の活用 に努めている。		残材・端材の活用 に努めている。	
2	建設資材リサイクル 率の向上	分別処理を シッカリと行っている。	廃材の分別処理を 継続する。	分別処理を シッカリと行っている。	廃材の分別処理を 継続する。	分別処理を シッカリと行っている。	廃材の分別処理を 継続する。	分別処理を シッカリと行っている。	廃材の分別処理を 継続する。
		リサイクル率の向上 に努めている。		リサイクル率の向上 に努めている。		リサイクル率の向上 に努めている。		リサイクル率の向上 に努めている。	

(3) 総排水量の削減

	活動 項目	本 社		小倉第一事業所		小倉第二事業所		黒 崎 事業所	
		評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み
1	水 使用量の削減	こまめに節水活動を 継続中。	節水活動を 継続する。	こまめに節水活動を 継続中。	節水活動を 継続する。	こまめに節水活動を 継続中。	節水活動を 継続する。	こまめに節水活動を 継続中。	節水活動を 継続する。
		出しっ放しの水道水で、 洗車しない。	植木の散水は、 雨水を利用する。						

(4) グリーン購入の推進

	活動 項目	本 社		小倉第一事業所		小倉第二事業所		黒 崎 事業所	
		評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み	評 価	今後の取り組み
1	エコ用品の活用	適正な製品が、見つからない。	適正なエコ品の 検討を続ける。	適正な製品が、見つからない。	適正なエコ品の 検討を続ける。	適正な製品が、見つからない。	適正なエコ品の 検討を続ける。	適正な製品が、見つからない。	適正なエコ品の 検討を続ける。
2	省エネ車輛の導入	エコ車導入を 検討している。	今後もエコ車導入を 心掛ける。	エコ車導入により、改善が 図られた。	今後もエコ車導入を 心掛ける。	エコ車導入により、改善が 図られた。	今後もエコ車導入を 心掛ける。	更なるエコ車導入 検討している。	今後もエコ車導入を 心掛ける。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認 及び 結果・評価

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反は ありませんでした。
関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

9. 代表者による全体評価 と 見直しの結果

2018年度は、前期比で 約16%の売上減少となりましたが、通年の売上高からするとまだ高い水準を維持
しております。2017年度は、過去最高の売上高だったため、活動目標の達成が、非常に困難な項目が多く
ありましたが、環境活動をしっかりと継続してきた結果、2018年度は、高い水準の売上高ながら、活動目標
を ほぼ達成することができました。これは、社員一人ひとりにエコアクション活動が定着し、普段の行動の中
に活かされている結果だと評価しております。これからは、みんなで取り組むこの活動が、安全意識や技術・
技能の向上などの面にも 大いに役立ってくれることを 期待しています。
エコアクション21活動も進化する中、私たちが創意と工夫を凝らしながら 職場環境の改善を図り、更に社会
や企業に貢献できるよう努力を 続けて行きましょう。

以 上